

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標

- 児童一人ひとりの自信と自己肯定感の高揚を図り、これからの世の中を支えていく子どもたちの「生きる力」を育てる。
- ・豊かな言語活動と知的好奇心に満ちた楽しい授業づくりのために、教職員がすすんで授業力・指導力の向上を目指して研究研修に取り組む。
- ・道徳教育、特別活動を中心に、児童の規範意識と自己有用感を高める指導の充実を図る。
- ・運動に親しむ機会を保障し、運動の楽しさを味わわせ、健康の大切さを理解させることにより、子どもたちの体力と健康の保持増進を図る。
- ・グループ活動や異学年交流を計画的に進め、児童相互の豊かな人間関係を育てていく。
- ・人権教育を全ての教育の根源であることを教職員児童で共有し、誰もが大事にされる教育活動を目指す。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

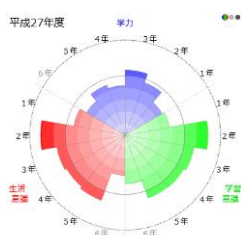
重点取組分野		取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導)		<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の基礎基本の定着を図るために、個に応じた指導と学習習慣の形成を図る。 ・全ての教科において、言語活動・表現活動を取り入れ、自己実現を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いた教室づくりから始める。 ○すくすくタイムの学習で基礎的な読み書き計算力を高め、自信につなげる。 ○小さな向上を見落とさず励まし、学習への意欲を維持できるようにする。 ○個への対応を重視し、少人数指導やT・Tあるいは取り出し指導の充実を図る。
	担当		

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

平成28年度



平成27年度



(1) 学力の概要と要因の分析

学力全体を見ると、市の平均を下回っているが、学力意識・生活意識共に、学年によるばらつきが減り、これまでの取組の成果がみられる。特に学習意識はここ数年、どの学年も平均以上に高まっているので、これまでの取組を着実に継続することで学力の向上も期待できる。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：昨年同様、学年に差はあるが、書く力が伸びてきている。読む能力には課題が残り、重点研の取組の成果と課題と重なる。
- 算数科：どの項目も低・中学年においては市の平均前後を保っているが、高学年においては市の平均を下回り、今年度の課題として取り組む必要がある。
- 社会科：全体的にどの項目も市の平均を下回っており、傾向には学年差はあるが、学習意識は高く意欲を高め、指導の充実を図ることで学力の向上を図っていきたい。
- 理科：技能面においては平均を下回っているが、思考・表現の能力は伸びている。学習意識はどの学年でも高く市の平均かそれ以上を保っている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学年・教科、項目によりばらつきが見られたが、年々その差が縮まり学校全体としてバランスが良くなる傾向にある。特に児童の学習に対する意識は高く、数値にも表れてきている。今後も、目標達成に向けての授業づくり、学習環境づくり(個別の学習指導の充実を含む)に、全学年・学級で取り組んでいけば、どの学年・どの項目も向上できる。

また、さらに家庭との連携・強化を図り、学習の習慣化、連続化を促進していくために必要な協力依頼や助言を学校・学年・学級で積極的に行い、保護者を啓発と協力体制の構築にも引き続き力を注いでいく。